11. 社会的な視点から考える

I know we have still not shattered that highest and hardest glass ceiling, but someday someone will and hopefully sooner than we might think right now. And to all of the little girls who are watching this, never doubt that you are valuable and powerful and deserving of every chance and opportunity in the world to pursue and achieve your own dreams.

―― Concession speech, November 9, 2016, Hilary Clinton（1947年～）

私たちは，いまだあの最も高い「ガラスの天井」を打ち破るには至っていません．しかしいつの日か，誰かがきっと，叶うならば私たちが考えるよりも早く，成し遂げてくれるでしょう．そしてこれを観ているすべての小さな女の子たちにも伝えたい．「あなたたちがいかにかけがえのない，力溢れる存在で，どんなときでも，自分の夢を目指して，実現する機会がそこにあるのだということを，けっして忘れないで」と．

本音トーク 1 ガラスどころか，鉄筋コンクリートの天井あり

Hilary Clinton が大統領選で敗戦したときのスピーチに登場する「**ガラスの天井**」．見かけ上はないのに，実際にはぶつかると痛いその障壁は，男女差別を語るうえでいくどとなく比喩として使われてきました．

女性に求められる役割は，その女性が所属する社会によって異なり，女性の社会的地位やそれにともなう生きやすさ・生きにくさを比較するのは容易ではありません．その１つの基準となりうるのが **Global Gender Gap Report 2020（『世界男女格差レポート 2020』）** です[1]．世界経済会議が発表しているこの調査は，世界各国を対象に，「教育（educational attainment）」「経済（economic participation and opportunity）」「健康（health and survival）」「政治（political empowerment）」のカテゴリーで男女格差の度合いを測っています．

2020年の本レポートによれば，

対象 153 か国中，日本は総合 121 位

でした（表 1）[1]．その内訳をみると，健康では40位と健闘しているものの，教育では91位，経済では115位，政治では144位と他国に大きく後れをとっています．

Hilary Clinton がガラスの天井と表現した男女間の隔たりは，無色透明なガラスというより，むしろ日本では鉄筋コンクリートに近いのかもしれません．もちろん本レポート自体に，指標の設定やランキング算出方法に対する批判もあります．これは，男性と比較した場合，その度合いの格差を調べる指標であり，男女ともに低いレベルであれば当然格差は少なくなるため，結果的に総合ランキングの上位に位置することができるが，女性にとって（そして男性にとっても）「本当に生きやすい社会かどうか」の判断が難しい場合もあるでしょう．100位以内には発展途上国も多く含まれています．例えば，男女ともに中学校まで進学するのがスタンダードな社会の場合，男女の格差自体はあまりないため，このランキングは上位に位置する可能性が高まりますが，「みんながみんな中学校まで…」という社会が本当に生きやすい社会かどうかは別の問題かもしれません．

それでも．日本における女性の立ち位置を考えるうえで本レポートは重要な資料であり，特に経済と政治のカテゴリーで後れをとっていることは明らかです．経済のカテゴリーには，「男女の労働比率」「賃金格差」「役員レベルやプロフェッショナルとされる職種で女性が占める割合」の項目が含まれ，政治のカテゴリーには「国会，大臣レベルの役職，県議会における女性の占有率」が含まれています．

簡単にいってしまえば，女性の社会的立ち位置として，日本人女性は日本人男性と比較し，働いている人がそもそも少なく，働いていても同様の勤務内容に対して給料が低く，役員もしくはプロフェッショナルな職種に就く可能性が低い．さらに日本人女性は日本人男性と比較して，国会・県議会の議員となる人が少なく，大臣レベルの役職を任される可能性が低い，という構図がうかんできます．